

# 長崎県不登校支援コンセプト（基本編・実践編）

子どもが生まれたとき「わが子が不登校になる」とは誰も思わないでしょう。

でも、現在の日本では小中学校の児童生徒のうち 3.7%の子が不登校です。

クラスに1～2名はおり、「誰が不登校になってもおかしくない」という状況です。様々な要因が絡み合って不登校になっていますが、子ども本人やご家族の子育てが責められることはありません。

ただ、全国的に「不登校の子ども・家庭が学校内外の相談機関につながっていない」ケースが4割にも上ります。このように、不登校を機にどこにも相談せずに社会的に孤立する子が増えることを長崎県では食い止めたいと思っています。

不登校にならずに楽しく過ごせる学校を目指すと同時に、不登校になっても社会から孤立することがないように長崎県では学校・行政・民間が協力して取り組んでいきます。

全ての長崎県の子ども笑顔のために。

## 長崎県不登校支援コンセプト 基本編・実践編



### 基本編



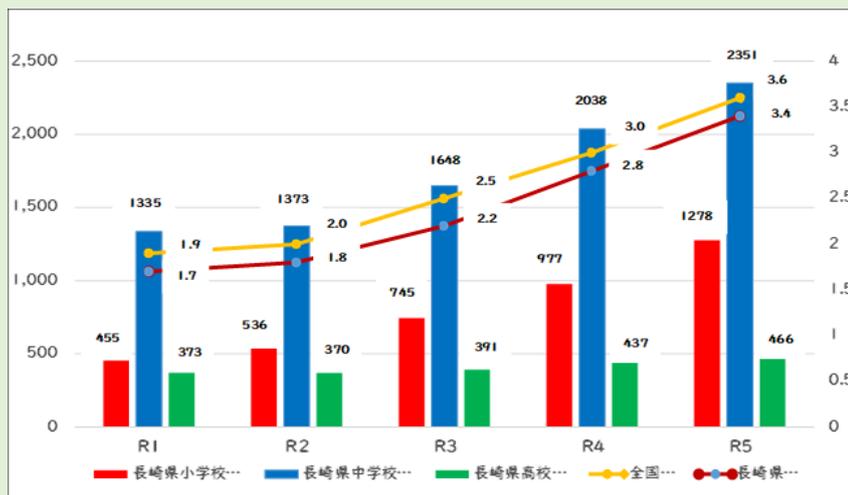
### 実践編



### 不登校の現状

全国と同様、増加しており、小学校などの低年齢が増える傾向も見られます。要因は、全国と同じく無気力・不安がもっとも多いのですが、その後に生活リズムの乱れなども多くなっています。これは、何らかのきっかけで不安が生じ、それが続くことでやる気が起きなくなり、朝、起きるエネルギーも少なくなり、不安を考えなくて済むように結果的にゲームなどの行動に現れていることも考えられます。(資料P1～P6)

### 不登校支援の基本的な考え方とこれまでの取組（基礎編 P6～P14）



朝起きづらく、結果的に生活リズムの乱れがあったり、ゲームによる影響などもあるようです

	小学生		中学生	
	全国	長崎県	全国	長崎県
1	学校生活に対してやる気が出ない (32.2%)	学校生活に対してやる気が出ない (32.6%)	学校生活に対してやる気が出ない (32.5%)	学校生活に対してやる気が出ない (31.5%)
2	生活リズムの不調 (24.5%)	生活リズムの不調 (29.0%)	不安・抑うつ (23.4%) ↓	生活リズム不調 (30.8%)
3	不安・抑うつ (22.6%)	親子の関わり方 (24.5%)	生活リズムの不調 (21.6%)	不安・抑うつ (19.3%)

「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

### 3つの通知

- ① [義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律について](#)（平成28年12月14日公布）
- ② [不登校児童生徒への支援の在り方について](#)（令和元年10月25日付文部科学省通知）
- ③ 「[不登校に関する調査研究協力者会議報告書～今後の不登校児童生徒への学習機会と支援の在り方について～](#)」について  
（令和4年6月10日付文部科学省通知） [【概要版】](#) ・ [【全体版】](#)



- ① 義務教育の段階における
- ② 不登校児童生徒への支援
- ③ 不登校に関する調査協力者会議（左：概要 右：全体）

現在の不登校支援は、文部科学省による1ページ目にあげた三つの通知がベースになっています。

不登校は誰にでも起こりうるもので、決して悪いことではありません。けれども、進路選択の際に難しい場合が生じることが指摘されてきました。そこで、長崎県では、これまでは未然防止、早期対応に力を入れてきました。

#### 【これまでの対応】

- ・ 各種研修会
- ・ 生徒指導推進協議会の開催
- ・ いじめ・不登校・発達障害等相談（県教育センター）
- ・ スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）の配置
- ・ 教育支援センター（適応指導教室）の設置
- ・ 各種教育相談体制（24時間子供SOSダイヤル・親子ホットラインなど）



いつでも話してみませんか。どんな相談でも大丈夫

**24時間子供SOSダイヤル**（親子ホットライン）  
（なやみ言おう）  
24時間対応 **0120-0-78310**  
メール相談 soudan@news.ed.jp

中・高校生対象 **スクールネット@伝えんぼ長崎**  
<https://www.1188.jp/kyushu/kyushu/kyushu/>

長崎県教育委員会

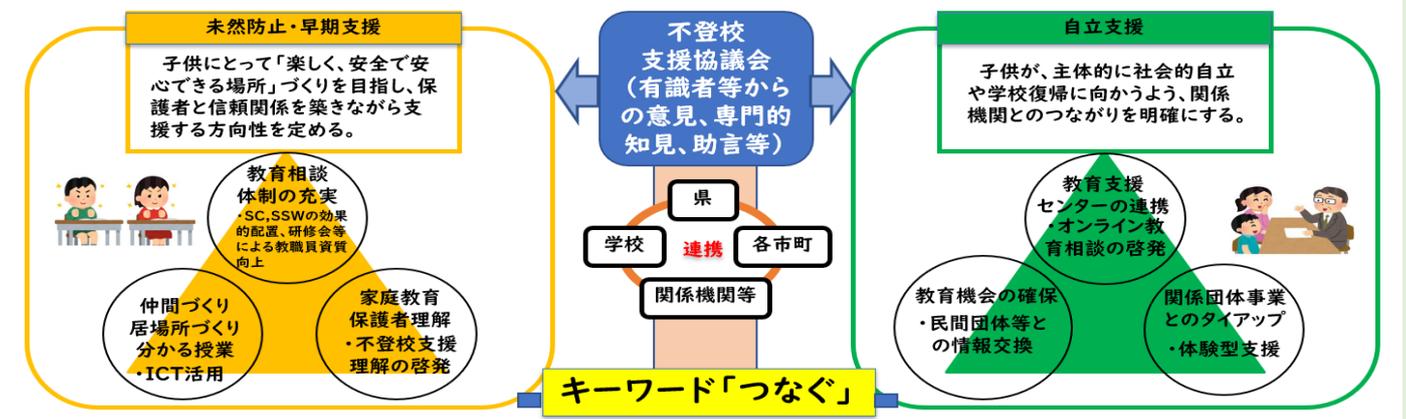
これからは、「**不登校支援グランドデザイン**」として、学校での取組は継続しつつ、子どもたちの多様な学びの場として、また、子どもたちが学ぼうと思えるときからスタートできるよう、学ぶ機会ができるように活動を学校外の施設とも連携しながら広げようとしています。

## 長崎県不登校支援グランドデザイン

児童生徒支援課

概要

令和3年度、県内の不登校児童生徒数（小・中・高等学校）は2,784人で過去最高となり、小・中学校で増加傾向にある。不登校は、どの児童生徒にも起こり得るものとしてとらえ、学校に再び登校させるという結果のみを目標にするのではなく、将来の社会的自立に向けた支援をすることが重要である。  
そこで、不登校児童生徒への支援の在り方について、学校関係者や有識者の参画を得て、県内の不登校状況の把握と検証を行うとともに、関係機関との連携強化を図り、より実効的な対策を講じることを目的とする。



「長崎県不登校グランドデザイン」

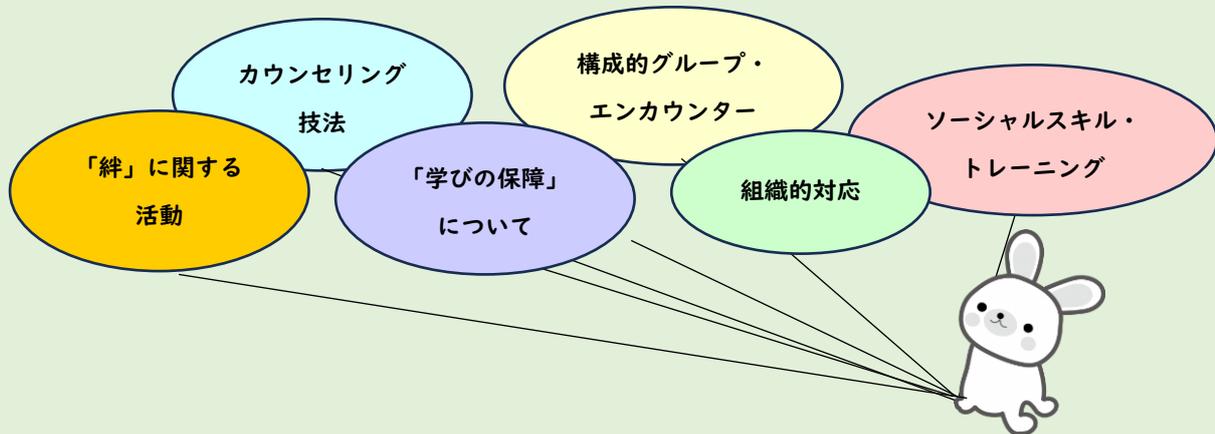
子どもたちを見つめるに当たり、「大切にしたい10の視点」(実践編)

- 視点1. 不登校支援の理解
- 視点2. 未然防止
- 視点3. 早期支援
- 視点4. 「関係機関との連携」への認識
- 視点5. 教職員も楽しくやりがいのある学校づくり
- 視点6. 個別最適な学びづくり
- 視点7. 支持的風土づくり
- 視点8. 相談をする
- 視点9. 「子ども」の見方や考え方で接する
- 視点10. 子どもへの関心、積極的なコミュニケーションと共感的理解



実践編 (子どもに目と耳を傾け、子どもの今と未来と一緒に考えよう)

実践編の主な内容



魅力ある学校づくり

居場所づくり	居場所づくり
絆づくり	絆づくり

観察・声かけ、組織的対応

学びの保障  
長崎県授業改善メソッド

育てるカウンセリング

傾聴、構成的グループ・エンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング



不登校児童生徒及び保護者の声

文部科学省が行った令和2年度の「不登校児童生徒の実態調査」では、子どもたちの「学校を休んでいる間の気持ち」について、小学生では「ほっとした、楽な気持ちになった(70%)」「自由な時間が増えて嬉しかった(66%)」という意見とともに「勉強の遅れに対する不安があった(64%)」という意見でした。中学生では、「勉強の遅れに対する不安があった(74%)」「ほっとした、楽な気持ちになった、自由な時間が増えて嬉しかった(69%)」「進路・進学に対する不安があった(69%)」という結果が示されていました。子どもたちは、表面上は見えないかもしれませんが、ほっとしたという気持ちと不安という気持ちを併せ持っています。そうした子どもたちに寄り添うために、本コンセプトに載せている資料の主なものを以下に紹介します。

長崎県・各市町教育支援センター

	教育支援センター(適応指導教室)名	電話番号
1	長崎市学びの支援センター「ひかり」	095-825-2932
2	佐世保市青少年教育センター学校適応指導教室「あすなろ教室」	0956-22-0781
3	島原市適応指導教室「ひまわり教室」	0957-64-7098
4	諫早市少年センター諫早市学校適応指導教室「ふれあい学級」	0957-22-2551
5	大村市学校適応指導教室「あおば教室」	0957-54-2100
6	平戸市教育支援教室「のぞみ」	0950-22-9252
7	松浦市適応指導教室「ステップ」	0956-72-1112
8	対馬市教育支援センター「みちるべ」	080-1720-2382
9	壱岐市教育支援教室「太陽」	0920-40-0164
10	五島市適応指導教室「たけのこ」	0959-74-3383
11	西海市教育支援センター「とまと教室」 西海市教育支援センター「あおぞら教室」	0959-37-0148 0959-37-0128
12	南島原市適応指導教室「つばさ」	0957-72-2210
13	長与町学校適応指導教室「いぶき」	090-3324-3131
14	時津町教育支援センター「ひだまり」	080-3520-1532
15	東彼杵町自立適応支援教室	0957-46-0353
16	長崎県教育センター教育支援教室「ふれあい広場」	0957-52-9241



① [望ましい人間関係を育む活動事例集 2023 \(長崎県教育委員会, 2024\)](#)

② [つながらば 不登校引きこもり社会資源ガイドブック](#)

③ [ゲーム依存相談対応ハンドブック](#)



望ましい人間関係を育む活動事例集



つながらば



ゲーム依存相談対応ハンドブック



子どもたちの成長には、様々な大人や子ども同士の関わりが必要となります。けれども、様々な理由で学校に行きづらかったり、ご家族外の人とつながりづらい状況になったりする子どもたちやご家庭があります。まずは、子どもたちが行きたいと思える学校を作ることが大切です。しかし、今、学校に登校しづらい子どもたちの様子は様々です。不登校支援コンセプトでは、その際で、どこにもつながらないご家庭がないように、どうすればいいかわからないご家庭がないように、社会とのつながりを絶やさず、子どもさんを支える保護者様に適切な情報資源や関わり方の学びの場ができるように情報を整理しました。しかし、たくさんの情報の中から、今、何が必要かというのは、わかっているようでわかりづらいものです。そのため、まずご所属されている学校にお尋ねください。そして、それでもわかりづらい場合は、各市町教育委員会や県の教育委員会にお尋ねください。また、民間にも不登校に取り組むフリースクール等の相談できる施設も増えています。

学校はいつか卒業します。その卒業の時期に、子どもたちが、これからどのように前向きに自分のこととして自分の人生を自己選択、自己決定していけるのか、それが大切だと思うのです。大人もそうですが、子どもたちも多様な選択肢があること、その中で、迷いながらも自分自身で決める力を持っていて、それを応援する大人や仲間がいることを感じていただきたいと願っています。

不登校支援協議会委員一同